

地本業務ニュース

JR 東海労・静岡地方本部

NO. 7 2014年 4月11日

発行者：JR 東海労静岡地方本部 山本繁明

平成 26 年度事業運営の基本方針・静岡支社重点

実施内容（骨子）について経営協議会開催 安全のために・お客様のために更なる対策を！

4月11日、地本は平成26年度事業運営の基本方針・静岡支社重点実施内容（骨子）について経営協議会を開催しました。はじめに会社から表記について説明（読み上げ）がありました。その後、地本から安全関係・営業関係・その他において提言してきました。

《平成26年度事業運営の基本方針・静岡支社重点実施内容（骨子）》

『すべては安全のもとに』

1. 安全・安定輸送確保に向けた着実な取り組み
 - (1) ルール・基本動作の意義を理解した上での任務の安全・着実な遂行
 - (2) 社員一人ひとりの「技術」「技能」向上への不断の取り組み
 - (3) ホームにおける安全性向上策の着実な実施
 - (4) CTC・PRC取替などの安全性向上策の着実な推進
 - (5) 地震・津波などの自然災害に対する防災対策の強化
 - (6) 異常時即対応体制の一層の充実
2. お客様サービスの向上を基盤とした競争力強化
 - (1) お客様に信頼される質の高いサービスの提供

- (2) 積極的な営業諸施策の展開
- (3) 各線区に応じた適切な輸送体系の検討・構築
- (4) お客様により安心してご利用頂ける快適な駅空間の創出

3. 将来を見据えた業務遂行体制の構築に向けた取り組み

- (1) あらゆる業務遂行における合理性・効率性の徹底的な追求
- (2) 業務全般にわたる経費支出および設備投資の低コスト化の徹底

4. JR東海社員として自覚ある行動の徹底

- (1) 規律・良識ある行動の徹底
- (2) 自らの役割を自覚し、主体的に行動できる社員の育成
- (3) 安定的、協調的かつ建設的な労使関係に充実

組合：具体的に説明はないのか。

会社：具体的には書いてある通りであるが、例えば1-(1)は、本質を理解しないで形だけでやっていることによって事故が発生していることがありこのようにしている。

《組合提言と回答》

1. 安全関係

- ① A T S - P T の取扱を確実なものとするため場内信号機 50m 手前に標識を設置するなど設備の追加が必要である。
- ② 防災対策の一つとして風規制などの対応や、自然災害に強い在来線設備の強化が必要である。
- ③ 自然災害時の出先地乗務員の安全確保と救済が必要である。

2. 営業関係

- ① 浜松駅のホームに、ホームライナー整理券の券売機の設置が必要である。
- ② 運転規制等による列車の遅れにより「さわやかウォーキング」の受付に間に合わないお客

様のために受付時間を延ばすなどの対応が必要である。

- ③ リニア中央新幹線建設において、関係自治体や沿線住民からの意見を真摯に受け止め誠実な対応が必要である。

3. その他

- ① 乗務員の負担軽減を考えた行路の作成、出勤・終了時刻の設定が必要である。

例えば、浜松では日勤行路で終了して次の日の泊まり勤務の出勤時刻が早いものがある。

これは、行路の順番を変えることで若干の解消出来るが、これを申し入れても会社はやらない。

- ② ダイ改の議論が充分行えるようハコダイヤは早めに提示されることが必要である。また、ダイ改のダイ改の申し入れに対する業務委員会の開催も、ダイ改目前ではなく早くに開催すべきである。

- ③ チャレンジ東海活動の大会副賞や提案活動の報賞金の改定が行われたが、それによりハードルが高くなり、社員に自主自発的な活動と言いながら高度な内容を求めることには反対である。

【回答】 個別に答えることは出来ないが、全体として安全対策は同じ考えである。まず、自分はどうするのかを考え続けなければならない。そして、足りないところは手を打ってハード・ソフト・教育など足していかなければならない。それは、会社だけのことではなく、社員一人ひとりがプロ意識を持っていくことである。まず、最優先にお客様に対してどうしていくのが我々のスタンスである。

組合：新駅についてプレス発表されたが、他にも橋上化駅計画が4駅ある。工事の段階で停電・閉鎖しなければならない時が5駅で年間300回と言われている。現在においても停電・閉鎖がやりづらくなってきており計画通りに工事が進んでいない。また、何か所かを同時に行うことも出来ない。よって、工事計画をしっかりと行うようにされたい。

会社：しっかり計画を立ててやっていくことは重要な取り組みである。

組合：防災対策として耐震工事はどこまで進んでいるのか？

会社：社員をないがしろにしているということではなく、お客様を最優先に進めている。

組合：ホームにおける安全性向上策とは具体的にはバリアフリーなどということか？

会社：そうである。

組合：本部・本社間の経協において雪害対策に対して、「一部区間で長期運転中止や途中駅での長時間抑止がないように、凍結防止や早めの運転中止といった対策の検討をしていく。また除雪対策についても検討していく」と回答しているが、支社ではその様に考えているのか？

会社：とりこにする前に列車を止めるように考えている。

組合：踏切の全方位型警報機は乗務員に対しても「赤」の表示が目立ってしまっている。乗務員は「赤」に対して非常に敏感なものでありストレスになるものである。乗務員に対しての表示の目的は何か？また、改善を求める。

会社：それは貴側の意見か？

組合：他の乗務員からも聞いている意見である。

会社：実態は把握しておく。

以上